

まちの未来と路面電車が抱える課題

1 路面電車の 厳しい経営状況

路面電車は1日2万人・年間730万人が利用している重要な公共交通機関ですが、車両や施設の老朽化が進み、平成35年までに更新費用約58億円が必要です。しかしながら、利用者の減少が続き、平成21年度の経常収支は約7,000万円の赤字となっており、現在の事業収入のみでは施設更新費用の負担が難しい状況です。

2 これからの札幌は人口減少・超高齢社会へ

人口減少によるまちの活力低下

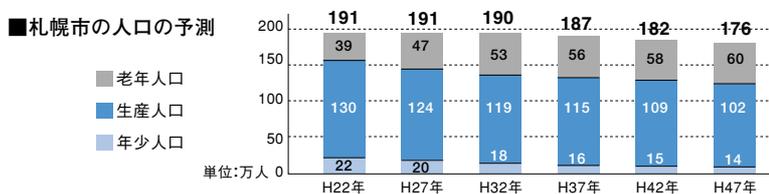
市の人口は5年後から減少を始め、札幌全体の経済活動などの低下が予測され、その中でも特に都心部の活力低下が懸念されます。都心部の衰退は、「まちの顔」、ひいては札幌全体の魅力を低下させ、観光客の減少につながる恐れもあります。

超高齢社会の到来

5年後には4人に1人が高齢者となる「超高齢社会」が到来し、自家用車を利用しない人が増えるなど、公共交通機関の必要性がさらに高まります。そのため、高齢者も安全に、安心して利用できる公共交通機関の維持・充実が必要となっています。

環境負荷の増大

郊外に住んでいた人が都心部に移り住む「都心回帰」が進み、将来的には、市全体の人口は減少するものの、都心部の人口と交通量は増加すると予想されています。このままでは都心部の自動車利用が増え、二酸化炭素の増加による環境への悪影響も懸念されます。



25年後には
人口が1割減り、
3人に1人が
高齢者に!

市からの 提案

上記①②の課題に対応する手段の一つとして、
人や環境に優しく、まちの活性化に貢献できる路面電車の活用が有効と考え、

**「路線を延伸し、路面電車を活用したまちづくりを進める」
必要があると考えています。**

路面電車を活用したまちづくり

魅力とにぎわいのあふれるまち

新たに導入するデザイン性に優れた車両や電停が、まちの魅力的な景観を作り出すほか、利便性の向上などにより沿線の経済活動の活性化を促します。路面電車の活用がまちに新たな魅力をもたらし、観光客や市民の集客などにより、多くのにぎわいを生み出します。

高齢者に優しいまち

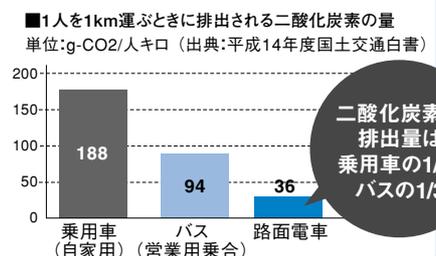
路面電車は階段を使わずに地上から直接乗り降りでき、行き先や場所が分かりやすいため、高齢者や観光客も安心してまちを移動できるようになります。



海外では、歩行者と公共交通機関の専用道路を整備し、にぎわいを創出

環境に優しいまち

利便性の高い路面電車などにより都心部の公共交通機関を充実させ、自家用車からの転換を促すことで、自家用車に頼り過ぎない、環境に優しいまちとなります。



経営の収支改善

延伸と合わせて「経営の効率化による経費の削減」「乗車料収入などの増加」を図ること、将来的には黒字化も見通せます。